

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

# Documentation No.15

ドキュメンテーション



6期生の皆さん

## ■グローバルな現代社会での貢献と活躍を期待して！

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。ドキュメンテーション学科の6期生が卒業する季節を迎えました。忘れることができない東日本大震災から、早いもので2年が経ちました。厳しい冬の寒さの中、未だに仮設住宅での生活を余儀なくされていらっしゃる方々や原発事故のために故郷に戻れない方々のニュースを見るたびに心が痛みます。今年の春休みもまた学生や教職員がボランティア支援を予定しています。充実した春休みを過ごしたいと考えている人は、是非ボランティア活動に参加してください。

卒業生が入学した2009年4月は、新型インフルエンザ(A/H1N1)が北米から瞬間に世界的規模で流行し、4月下旬には日本にも侵入し、感染者が全国に広がっていきました。このようなウィルスのハイスピードな侵入は現代社会がグローバル化している証拠です。産業や経済はいうまでもなく、インターネットによってわが国の情報分野の知識や技術も欧米との格差がなくなっています。ドキュメンテーション学科で学習する内容は、情報学はもちろん、古典籍や資料の電子化、図書館学など、グローバルな分野を扱っています。ドキュメンテーション学科では、2011年に国際交流協定を結んだ台湾の世

新大学の大学院生5名の研修を、2012年7月前半の2週間実施しました。その内容については、前号(No.14)で詳細に紹介したとおりです。異文化に接する体験によって、モノの考え方や人間性に深みが出るのが期待されます。この3月には、今度はドキュメンテーション学科の学生が世新大学に行って研修を受けてきました。この学会報が配布される頃には、参加者が一回りも二回りも大きく成長して体験談を話してくれていると思います。この研修は2012年度から始まった「特別実習Ⅱ」という科目で、学年を超えて本学科の学生であれば誰でも参加できます。今年度履修しなかった人も、来年度は是非履修を考えてみてください。

卒業生の皆さんは、ドキュメンテーション学科で学んだ知識や技術を活かして、グローバル社会で貢献していただきたいと思います。在学生も、平成25年度に予定されている海外からの研修生の実入れや「特別実習Ⅱ」を通じて、是非グローバルな視点から、これからの大学生活を実りのあるものにしてください。

ドキュメンテーション学科主任

原田 智子 Tomoko Harada

# 平成 24 年度 卒業論文題目

## 原田智子研究室

- 石坂 匠 国立国会図書館利用者アンケートに基づくサービスの利用状況に関する分析
- 坂井 淳 公共図書館における IC タグ導入に関する調査
- 坂本 昌子 雑誌専門図書館の調査 — 大宅壮一文庫と東京マガジンバンクの比較 —
- 佐藤 敏拓 大学図書館 OPAC における映像資料の検索と収録データの比較
- 新里 紀子 大学図書館ランキング結果に基づく大学図書館の傾向と分析
- 鈴木 大将 図書館求人情報に関する調査
- 田近 萌 神奈川県公立図書館の利用案内に関する調査
- 丹羽江梨子 公共図書館における児童文学賞受賞絵本の所蔵率と特徴
- 原 詩央里 レファレンス協同データベースで使用されている情報源の調査研究
- 山下菜穂子 レファレンス協同データベースの日本史カテゴリにおけるレファレンス事例の内容分析

## 長塚隆研究室

- 秋山 友祐 電子商取引のタイプ別特徴と今後の展望
- 井上 かな 観光地ホテルホームページの Wayback Machine による解析
- 大平 実花 デジタル教科書のコメント文の自動解析
- 大友すみか 公共図書館における電子書籍貸し出しサービスの現状と課題
- 塩田 一寛 投手の投球技術向上に関するデジタル教材
- 鹿川 大翔 野球の走塁技術向上に関するデジタル教材
- 下澤 瞭 ミニバスケットボールのデジタル教材作成
- 白井 雄大 地域データベースの構築
- 畑井 直人 違法ダウンロードが商取引に及ぼす影響
- 廣瀬 冬樹 サッカー技術向上のためのデジタル教材の作成
- 柳沼 宏明 野球のバント技術向上に関するデジタル教材

## 大矢一志研究室

- 池上 友梨 柔軟なレイアウト変更に対応する Web 版 OMR システムの開発

## 角田裕之研究室

- 鈴木 聖士 日本における電子書籍の普及のための課題の分析
- 高橋 駿貴 鶴見大学に電子書籍を導入するための考察
- 千頭和 俊 書籍の表紙デザインによる読書意欲と購買意欲の比較
- 長岡 翔吾 電子書籍に関する著作権問題についての考察
- 松澤 俊 鶴見大学図書館における初心者を対象とした OPAC の利用しやすさについての調査と考察
- 渡邊 皇太 災害時における安否情報に関する有効な伝達方法の研究

### 伊倉史人研究室

- 小山田藤子 『鹿島名所図会』の研究  
 上小牧万璃子 ペロ－童話集とグリム童話 ー初訳の研究ー  
 上出 真大 くずし字の読み方の研究  
 木村 幸代 貴重書の取り扱い規定について  
 高橋 怜名 日本昔話の研究 ー御伽草子・日本昔噺・まんが日本昔話の内容比較ー  
 重本 千展 小倉百人一首 歌人絵の研究 ー歌人絵の比較・分類と関係性ー  
 根岸 治実 『徒然草』版本の研究 ー版種の比較と分類ー  
 早川 友絵 鶴見大学図書館蔵『徒然草』古写本の調査・研究  
 平山 実奈 徒然草の挿絵の調査及び研究  
 渡邊 里美 石碑に刻まれた俳諧 ー都内に残る句碑の調査・研究ー

### 久保木秀夫研究室

- 新井 力也 相撲の歴史に関する文献の調査・研究  
 小島 翔平 浦島太郎に関する諸文献の比較と考察  
 神谷 洋輔 夏目漱石の自筆原稿に関する所在調査と研究  
 神保あかね 日本の古典籍における装飾料紙についての研究 ー西本願寺本三十六人家集を中心にー  
 鈴木あすか 戦国武将キャラクターの変遷に関する研究 ー石田三成を中心にー  
 高木 俊輔 著作権の保護に関する文献の調査研究  
 太刀川直輝 初期日本警察に関する文献の調査・研究  
 濱田 真拓 野球指導者の著作に関する比較研究  
 福田 将之 穴戸氏の系図についての研究  
 福原 大輔 戦時下の日本野球についての調査・研究

### 元木章博研究室

- 川島 智美 学生のセキュリティ対策に関する危機意識向上を目的とした Web 学習教材の作成と評価  
 神野 友里 全国のミュージアム Web サイトにおける Flash アクセシビリティの調査と評価  
 須賀しおり 研究室規模の蔵書検索・貸借管理システム (MOPAC2) の開発と運用  
 鈴木 雄也 OS のユーザ補助機能の比較調査と提案  
 露崎沙耶風 両眼立体視映像の提供に関する現状調査と提案  
 出口 麻美 公共サービス機関における聴覚障がい者向け情報保障に関する調査・提案  
 松尾由梨乃 ゲーミフィケーションを活用した初学者用点字学習支援システムの開発と評価  
 宮内隆太郎 元木研究室内ネットワーク監視システムの開発と評価 ー視化の必要性ー  
 山内 弘喜 鶴見大学図書館における視聴覚サービスの向上を目的とした調査と提案

### 🔍 原田智子研究室

原田ゼミでは計画的に卒論を進められます。また先生が親身になってくれるので頑張れば頑張る程、いい論文が書けます。夏休みに2泊3日で草津温泉へ合宿に行きます。合宿では中間発表と観光をします。この旅行を通してゼミ内の交友関係も深まると思います。原田ゼミは静かで真面目な雰囲気なので、卒論に集中出来る環境だと思います。男女共にみんな優しく困った時は助けてくれたり相談に乗ってくれる温かいゼミです。 (坂本昌子)



### 🕒 角田裕之研究室

角田ゼミは図書館学が専門で、図書館学コースと情報学コースの学生が在籍しています。卒論の内容はコース毎に特色があり、電子書籍についての論文でも、大学図書館での利用状況について調査する人もいれば、日本での普及における課題について考察する人もいます。テーマや内容の異なる論文を書く上でも、それぞれについての的確なアドバイスを頂けたので、私を含め、手探りの状態だった卒業論文もなんとか完成に漕ぎ着けることができました。 (鈴木聖士)

### 📡 元木章博研究室

元木研究室は、情報・教材開発・システム開発・社会福祉・図書館・サブカル等、様々なことを卒論のテーマとして扱っています。どのテーマもしっかり目的を持って取り組まれています。その為、早くから研究室生として活動が行われ、一年を通して忙しくしていますが、各自やりがいを持って動いています。スケジュール感を持って動くことが身につけられる研究室です。また、縦横の人の繋がりを大事にしており、OB・OGの先輩から卒論や就活のアドバイスを受ける機会があります。楽しい合宿などもありますので、興味のある方は元木研究室へお越しください。 (須賀しおり)



### 📖 久保木秀夫研究室

私は相撲の歴史に関する文献の調査・研究をテーマに一年間、卒業論文に励みました。久保木ゼミは書誌学コースなので、古い文献に携わることが多くなり、研究内容だけでなく、日本の歴史の知識も得ることができました。さらに、自主性があり、自分のやりたいことをとことん追求できました。久保木先生は毎回発表の場を与えてくれるので、プレゼン力と発言力も身につけ、これからの将来にも活かせるような時間を過ごせました。 (新井力也)

## □ 長塚隆研究室

卒業論文が完成したいと思うことは、1年という時間をかけても調査期間は短く感じるということです。また、調べれば調べるほど、それぞれの公共図書館の特色やサービスの工夫などがわかり、調査がとても楽しかったです。ゼミ全体の感想としては、こまめに進捗状況を報告し合い、お互いに進め方などを相談し合ったりしました。また、思うように進まないときはお互いに励まし合うこともありました。卒業論文自体のテーマは一人一人違ったためにそれぞれが独自で研究し論文を書き進めていきましたが、協力しあえるところは協力して進めていたために全員が卒業論文提出出来たのではないかと思います。毎週行う卒業論文演習の授業では、それぞれが進捗状況を報告し合いました。 (大友すみか)



## 平成 24 年度 研究室紹介

### ∞ 伊倉史人研究室

伊倉ゼミには書誌学コースだけではなく、情報学、図書館学コースの学生も多く所属しています。研究テーマも皆さまざまで、自分のしたいことができます。アットホームな雰囲気、調査中はお互いに意見を出し合いながら進めることができました。ゼミ生同士も仲が良く、夏休みには埼玉の川越に一日研修にも行きました。先生は面倒見も良く、卒論指導だけでなく、就職の相談など、いろいろな面で学生のサポートをしてくれます。 (根岸治実・早川友絵)



### 👤 大矢一志研究室

卒論を書くにあたって苦労したのは、専門的な話を誰でも理解できるよう、わかりやすく書くことです。「初めてシステムを使う人」や「初めてこの論文を読む人」の立場に立ち、客観的な目線を持つことを常に心がけました。それでも、無意識のうちに主観がまじってしまい、説明不足を指摘されることが多かったです。客観的な目線を持つには限界があり、家族や友人、先生に助言をお願いすることの重要性を痛感しました。これから卒業論文に取り組む皆さんは、自分一人で悩まず、他の人と支え合いながら、大学生活の思い出になるような「作品」を作り上げてください。 (池上友梨)



## No.3

### 【ハンブルク児童図書館 [ハンブルク、ドイツ]】

*Jugendbibliothek Hoeb4u, Hamburg, Germany*

ハンブルク市内の基幹駅である Altona の西側に延びるショッピングモールを抜け、途中、5 叉路の中から下町の商店街のような道を北上すると、周囲が廃墟ビルに囲まれた雰囲気の一部に出くわす。どうやら、ここは再開発が進められているようで、その中に児童図書館がある。

図書館が入居する建物は、元は、船のスクリューを作っていた部品工場で、天井にはクレーンの跡が、地面には重たいスクリューを運んだのであろうトロッコの線路が残されている。重たい鉄の扉を開けて工場建屋に入ると、天井にかわいらしい案内板が飾られている。この時点で、ようやく、ここに児童図書館があることを実感できる。看板の下に、子供図書館 Hoeb4u の入り口がある。図書館には、沢山の子供達が集まっていた。おとぎの国の入り口とは、このようなものなのかもしれない。



Hoeb4u



マンガコーナー

達は幸せである。

今回の一品は、Book Space というコーナーに置かれている本達である。このコーナーには、白紙の本が置かれていて、子供達は、それらに自由に書き込みをして、自分の本を作ることができるようになっている。書き込んだ本は、そのままこの棚に置いておくと、他の人がそれを読むこともできる。はじめの2、3頁で終わっているものもあれば、大作もあったりする。表紙をきれいに飾った本もあった。ドイツ語は読めないけれど、手にとって眺めるだけで、嬉しくなりました。

(大矢 一志)

フロアは広くない。かわいらしいオブジェが子供向け図書館の雰囲気を作り出している。置かれている資料は、児童書は当然のこととして、マンガ、アニメ、ゲームソフト、ボードゲームなどが、貸し出しを前提に棚に並んでいる。小学校の3、4年生から中学1年生くらいまでを対象にしているのだろう。マンガのコーナーには、ドイツ語版の『鋼の錬金術師』があった。図書館を利用する習慣を子供の頃から身につけるために、このような施設はきっと役に立つだろう。ハンブルクの子供



ブックスペース

アクセス：Altona 駅から約 600m。歩いて 10 分程度。途中の 5 叉路で、右から 2 番目の道を間違えずに選べば、すぐに着く。ハンブルクの日常生活を見ることができる通りのようで、面白い。

開館時間：14:00-19:00(火曜 - 金曜) 12:00-16:00(土曜) 日曜と月曜が休館日

アドレス：Jugendbibliothek Hoeb4u, Friedensallee 9, 22765 Hamburg, Germany  
<http://www.hoeb4u.de/>

## No.4

### 【静嘉堂文庫〔世田谷区、日本〕】

*Seikado Bunko Art Museum, Setagaya-ku, Japan*

東急田園都市線・大井町線の二子玉川駅は、鶴見駅から大井町乗り換えで4、50分ほど。そこからさらに、バスで10分ほど行ったところにあるのが静嘉堂文庫である。

静嘉堂文庫は、戦前の三菱財閥（今の三菱グループの前身）を築き上げた岩崎彌之助・小彌太の2代によって蒐集された、約6千5百点の東洋古美術と、約20万冊の和漢古典籍の一大コレクションである。書誌学や古典文学を専攻していて、この静嘉堂文庫の恩恵を蒙っていない研究者は、おそらくひとりもないはず。そう言えば私も、研究を始めて一番最初に訪書したのが、この静嘉堂文庫だった。もう15年近く前、ちょうど西宮左大臣源高明と安和の変について調べていた頃。中山信名自筆の『西宮左府大堰河歌合考註』なる書物が蔵されていることを知って、いったいどんな内容なのか



静嘉堂文庫



庭園

とものおすごく気に入り、意を決して閲覧を申し込んだ。読めないくずし字を必死になって読んだことや（追い詰められれば意外と読める！）、閲覧後、当時文庫長でいらした高名な漢学者の米山寅太郎先生にご挨拶できたことを、今でも鮮明に覚えている。

今年の1月にも、『古今集』や『伊勢物語』の鎌倉時代写本を閲覧させていただいた。戦前から広く研究者に開放されてきた文庫であるが、最新の研究成果を踏まえて調べ直せば、まだまだいくらかも発見がある。指導教員の紹介状があれば、大学生の閲覧も可能とのこと。蔵書の全貌は『静嘉堂文庫国書分類目録（正・続・再続）』『静嘉堂文庫漢籍分類目録（正・続）』（1929～1956）などによって知ることができる。静嘉堂文庫の古典籍を十分に活用するような研究テーマに、ぜひとも取り組んでみてはどうだろう。

ちなみに静嘉堂文庫の建物は、写真のような瀟洒な洋館で、もと岩崎家の庭園だった岡本静嘉堂緑地の中にある。それはもう広大な敷地で、門を入ってから文庫に辿り着くまで、歩いて何と5分もかかる（さすが財閥の

庭園である）。木々に囲まれた緩やかな坂道を上っていくのが、この上なく心地よい。散歩コースとしてもおすすめ。

また閲覧後には、文庫に隣接する静嘉堂文庫美術館にも寄ってみよう。私が今回訪れた時は、茶道具名品展を開催中で、世界に3碗しか残っていない曜変天目茶碗のうちの、稲葉天目と油滴天目、それに信長・秀吉・家康などの手を経てきた大名物の茶入、付藻茄子と松本茄子が展示されていた。うち両茄子は大坂城落城後、家康の命によって焼け跡から破片が掘り出され、修復されて、今に伝えられたという。継ぎ目がまったくわからないその修復技術に感嘆しきり。ほかに定家の小倉色紙も懸けられていた。眼福眼福。 （久保木秀夫）

アクセス：東急田園都市線・大井町線二子玉川駅バスターミナル4番のりばから東急コーチバス「玉31・32系統」で「静嘉堂文庫」下車、徒歩7分ほど。

開館時間：平日 10:00～16:20（詳細は下記アドレスにて）

アドレス：東京都世田谷区岡本 2-23-1 静嘉堂文庫美術館

<http://www.seikado.or.jp/030200.html>

# 学生の声

## 一年目を振り返って

Keiichi Aokari 青苺 慶一

この1年を通して、鶴見大学での生活で感じたことは、「おもしろさ」と「苦勞」でした。まず、高校とは授業の受け方、周りの人との接し方、生活習慣を変えて生活しなければならなかったことが大変でしたが、同時に、今まで知ることができなかったことが自分で見つけれられる、とても良い時間を過ごすことができた、今ではこの大学生活を楽しむことができます。

Yuko Komine 小峯 裕子

この学科に入って始めてコンピュータに関する基礎知識を学んでいます。例えば、パソコン内部の装置の役割や、普段テレビなどと言われている通信速度に関する事など、仕組みから実用までです。ドキュメンテーション学科に入ると、まず始めに4年間使う自分専用のPCが配布されます。現在私たちはそのPCを使って授業や課題の提出等を行っており、情報系の学科だなあと感じさせられます。部活では、各週で様々なスポーツを行う基礎体力増進会に所属しています。高校ではやったこともないスポーツを体験できており、とても充実した大学生活を送っています。

Haruna Toyokawa 豊川 春菜

私は鶴見大学に入学して、紫雲祭実行委員会という大学祭を企画・運営する団体に入りました。5月頃から準備を始め、総勢15人のメンバーで一から大学祭を作っていきます。紫雲祭当日は、メンバー全員がスタッフTシャツを着てお客様を笑顔で迎えます。幼い子供から学生さん、大人の方まで幅広い年代の方によるこんでもらえた時はとても嬉しかったです。最高の思い出です。

Tomomi Hashimoto 橋本 朋美

私がこの鶴見大学で楽しかったこと、やりがいももてたことは、まず友達がたくさんできたことです。最初は大学生では高校生と違ってクラスで行動するのではなく、必修科目以外では自己で授業選択し、自己で行動するといった形式なので、正直友達ができるか不安でした。ですが一度自分から声をかけていくことで、たくさんの人と友達になり、今では楽しい大学生活を送れています。みなさんも是非この鶴見大学に入って楽しいキャンパスライフを満喫して下さい。

Haruna Mori 森 春菜

私が鶴見大学に入ってよかったと思うことは、ボランティア活動をすることが出来たことです。鶴見大学では東日本大震災が起きた年に学生が主体となってボランティア団体を立ち上げて、それが今でも長期休暇を利用して、現地で活動を続けています。私も大学に入学した年の夏に一週間参加させてもらいました。現地の小学校に行き、勉強を教えたりイベントを考えて児童を楽しませたりしています。一人ではできないような活動を出来る団体に出会えてよかったと思います。これからも授業だけでなく、こういう活動を続けていきたいです。

Satomi Yoshino 吉野 里美

鶴見大学の施設の中で一番楽しいところは図書館です。とても資料が充実していますし、施設も面白いものや、便利なものが沢山あります。例えば、上下段に机がある学習スペースがあります。ここは一人で学習するときに、半個室状態が作れるためおすすめです。また視聴覚スペースが地下にあり、映画を借りて見ることもできます。利用すればするほど設備の充実度が実感できる素晴らしい場所です。ぜひ見に来てください。

## 「昇る」

## 【写真部】



この写真のタイトルは「昇る」だ。去年の3月に梅の花を撮影した。空に伸びていく花を見ながら、2年生になることへの不安を感じていた。今、またあの頃とは違った「不安」を抱えている。写真は撮った時の気持ちを思い出すことが出来るので私は大好きだ。

私が所属する写真部は31人の内6人がドキュメンテーション学科の学生だ。活動はメインになる文化祭の展示に向けて、毎月撮影会を行っている。私が担当している写真部のブログでは展示会のお知らせや撮影会の事を更新している。様々な写真から人柄や感情を感じ取ってもらいたいので、見てもらえると嬉しい。

■ 鶴見大学写真部ブログ <http://ameblo.jp/tsurumi-u-photoclub/>

Yuko Sanada 真田 裕子

## 「厳しい分だけ自分の力に」

Tsubasa Sakagami 阪上 翼

私はこの大学に入ってからすぐに、大学図書館でのアルバイトを始めました。元々、図書館関係の仕事を目指してこの学科に入った自分にとって、このアルバイトはとても魅力的なものでした。なぜなら、図書館学の授業で学んだ事がダイレクトに役立ち、更には授業では教われない利用者からの様々な質問に対して、しっかりとした応答を実際にしなければならない

のですから、厳しい分だけ自分の力になります。

鶴見大学の図書館では、主に三種類のアルバイト内容があり、それぞれ違った特徴があります。一つ目はメインカウンターでの業務で、これは想像しやすいと思います。図書館の顔とも呼べる場所での、本の貸し出し・返却手続きが主な業務で、他にも機材の貸し出しや、共同利用室と呼ばれるところの管理も行います。一番利用者と接する機会が多く、忙しい反面、最も楽しい場所です。

二つ目は文献複写と呼ばれる仕事で、こちらはメインカウンターとは違い、利用者と接する機会はあまりありませんが、様々な大学から来る論文複写の依頼を、職員の指示を聞きながら探し出して、コピーしてくるという業務です。書棚にいたることが多く、目的の本を素早く探し出す能力が自然と身に付きます。人とより、本と接している時間が長いので本自体の知識が増えるのも特徴です。

最後に、AVカウンターでの業務です。これは視聴覚資料を閲覧してもらう部屋でのカウンター業務で、メインカウンターとはまた違った対応が必要です。

いかがでしょうか。この紹介で、図書館アルバイトの魅力が少しでも伝われば良いなと思います。司書を目指す方はぜひ、応募してみてくださいはいかがでしょうか。

図書館学コース

Kanako Suyama 須山 加奈子

私は図書館学コースに進みたい。

司書資格講義から「情報提供スペシャリストとしての地域との関わり」や「図書館のあり方」を学んできた。そして、先輩方の卒業論文進捗発表会では「障害者サービス」について学んだ。もともと、高校時代に手話や点字を学んでいた事もあってか、興味をもちのめり込むまでに時間はかからなかったのだ。

図書館は、老若男女・障害の有無関係なく情報提供を行う場でなければならない。しかし、そんな配慮の無い場所も少なくない、というのが現状でもある。そのため、卒業論文では鶴見大学構内に限らず、図書館のバリアフリーについて研究したい。それは本来、子供や障害者が感じる「使いづらさ」を改善する取り組みを指す。例えば、普段から目にするスロープや手すり一つでも、膝が悪い人や目の見えない人のためのバリアフリーと言えるだろう。鶴見大学は特殊な地形から、急な段差や幅の狭い道が多い。そのため、研究したことをそのまま生かすことが出来る。加えて、講義で習った大学図書館のサービスにも応用出来るのではないかと考えたのだ。

この2年間、目録作成や情報検索等の「図書館側のサービス」しか学んでこなかった。そのため、利用者側に立って感じる「不便」が知りたい。そして、その不便に対する各図書館の対応・対策、及びサービスの知識を深めていきたい。



書誌学コース

Ryo Imai 今井 亮

ドキュメンテーションは高校生の授業で言えば情報と国語を合わせたものになります。資料となる図書や文献などを記録しそれを広く提供するまでのことを学びます。私はその中でも古い本や文字の解読などを行う書誌学コースを選びました。

歴史は人々が今まで築き上げてきた文化の印です。テレビやラジオ、さらには紙も存在しなかった時代に人はどうやって遠くの人に伝達をしたのか。紙がなかった時代、何に文字を書いたのか。そして文字は、いつ、どこで作られたのか。そうして発明された文字はどのような変化を遂げて今私たちが使っている文字になったのか。昔の人はその功績や発明、出来事を後世に伝えたく本や文字を残したのだと思います。それを読み解いて、また来世に伝えたくて私はこの勉強をしています。過去のものだからいづれ全てが解明されるのではと思われがちですが、書誌学では1000年くらい前の物も対象にしているのでもっとも幅広いです。実は「昔の人が大昔の本を解読してまとめた本が存在するけど、昔の字だから読めない！」というものもあります。

書誌学コースでは古代中国で古いに使っていたとされる甲骨文字や、清少納言が書いたと言われている枕草子に書かれているミミズのような文字、草書なども読めるようになります。昔の文字が読めるようになるとさらに歴史が面白く興味深いものになると思います。

私は3年生で情報学コースを選択したいと考えています。今まで学んできた基礎の知識を生かしてもっと専門的なことを勉強し、複雑なプログラムを制作できるようになるのが目標だからです。

そう考えるようになったきっかけは、親しくしている先輩の卒業論文でした。投稿した写真に日付やキーワードなどのタグをつけ、それによって検索をかけられたり管理を行えたりするシステムの制作と実用化がテーマで、私は先輩の論文の添削のお手伝いをさせていただきました。実際にシステムも使わせてもらい「個人でこんなちゃんとしたプログラムが組めるのか」と感動したことを覚えています。

これまでの2年間で、ドキュメンテーション学科の学生として様々なことを学んできました。その中でも一番惹かれたのはプレゼンテーション演習で、自分の言いたいことを相手にそのまま伝える難しさを授業毎の発表でいつも感じていました。

そこで私は、プレゼンテーションをもっとしやすくなるシステムがあれば便利なのではないかと考え、そのプログラムを組んで自分で作りたいと思っています。まだ構想も何も未熟ではあるのですが、もっと「他人に自分の考えを分かりやすく伝える」ことが苦痛でなくなるようなプログラムをしっかりと制作したいです。

## 【資格合格体験記】

Yuri Ikegami 池上 友梨

### 基本情報技術者試験 (FE)

[Fundamental Information Technology Engineer Examination]

私が基本情報技術者試験に挑戦したのは、将来に対する不安を緩和したいという思いからでした。大学入学当初、将来の夢がなく、自分の今後について漠然とした不安を持っていた私は、とにかく何か行動しようと思い立ち、就職活動に役立ちそうな資格に挑戦することにしました。基本情報技術者を選んだのは、企業で評価される「国家資格」であり、「文系出身でも理系レベルの力があることのアピール」になり得ると思ったからです。実際に、就職活動の面接時に基本情報技術者を取っておいて良かったと感じる場面は非常に多かったです。

試験に合格するために、私はそれぞれの分野にかける時間を決め、短時間でも毎日必ず勉強しました。合格するまでの約一年間で、IT業界に勤める自分の姿をイメージするようになり、来年度からはIT企業でSEとして働かせていただくことになりました。私は試験への挑戦を通して、資格だけでなく、自信と今後の目標を得ることができました。

資格を持っているだけでは役には立たないかもしれませんが、資格を取得するための努力や資格を取ることで得た自信は、きっと自分のためになると思います。みなさんも、何か漠然とした不安を抱えてもやもやしているのなら、とにかく行動してみることをお勧めします。



□ 株式会社日本電気特許技術情報センター 竹川恵加

実習の最後に、仕事をする上で必要な心構えは何かとお尋ねしたところ、スタッフの皆様が一様に「日々勉強すること」とおっしゃっていて驚きました。データも仕事の方法も毎日更新されていくものです。だからこそ、どこまでできたらプロというのではなく、日々精進していく気持ちが大事だという事を知りました。

□ 横浜トヨペット株式会社 熊谷優希

接客がうまくできない、作業が効率よくできない時は、その度に考え、改善する力を養うことができました。お客様や営業スタッフの皆さんから「ありがとう」と言われた時はほんとうに嬉しく、さらに多くの人に喜んでもらえるように頑張ろうという気持ちになりました。

□ 株式会社ホテルおかだ 須田早紀子

初めの頃は緊張して表情も動きも硬いと注意されましたが、徐々に職場に馴染み、笑顔を作れるようになりました。しかし、同時に仕事の重要さを知って別の緊張が生まれ、自然な笑顔を作れなかったことが悔しいです。

□ 株式会社神奈川新聞社 山元美菊

ヨコハマ 2012 恐竜展で来場者 10 万人を達成した方に取材する機会を設けて頂き、実際に自分で取材・写真撮影・記事編集したものが翌日(8月16日)の神奈川新聞に掲載されました。会社の責任にも繋がる数多くの経験をすることが出来、自分の中で仕事に対する視野が大きく広がった実習となりました。

□ 株式会社西田書店 大塚祐貴

実習を通して質問をすることの大切さを学びました。実習中は、様々な方からお話を聞く機会があり、質問もたくさんしました。しかし、簡潔に質問内容をまとめられませんでした。実習後は、質問を整理して、わからない点を聞く努力をするようになりました。

□ 株式会社樹村房 大西志朋

普段の大学生活では接することがないような様々な年代や立場の人達と多く話す機会を得ることができました。まだまだ話し上手とまではいきませんが、その経験からコミュニケーション能力への不安が減りました。

※活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

- 「ドキュメンテーション」第15号をお届けします。
- ドキュメンテーション学科6期生の卒業記念号です。卒業生の皆さん、おめでとうございます。
- 本学科の学生が所属するクラブの紹介を随時掲載して行きます。今号は写真部を紹介します。
- その他、アルバイトや資格取得の記事など満載です。

ドキュメンテーション 第15号  
平成25(2013)年3月14日(木)  
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会  
横浜市鶴見区鶴見2-1-3 (〒230-8501)  
☎ 045(581)1001 発行責任者: 原田 智子  
学科ホームページ: <http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>